

令和6年度玉名女子高等学校 学校評価

学校教育目標 基本方針

綱領「質実剛健」「良妻賢母」「温雅貞淑」をふまえた教育実践を行う。特に男女共同参画社会の中で活躍するための資質や能力を育む。

普通科・ビジネス科・食物科・看護科・看護専攻科の専門教育の特徴を生かした多様な学びの中で、生徒の特性をふまえその資質や能力を最大限に伸ばす。

令和6年度 努力目標

1. 安心・安全に過ごせる学校づくり
2. 授業改善、基礎学力の充実及び専門性向上のための指導
3. 基本的生活習慣の確立を図るための取組（見えない学力の充実）
4. 文武両道
5. 人権教育の推進
6. 生徒と向き合う時間の確保

重点努力目標に対する自己評価総括

		評価項目	評価	総括
重点目標	1	安心・安全に過ごせる学校づくり	B	「健康で安全な学校生活」に関する肯定的評価（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）は、教師、生徒共に7～8割であるが、「いじめのない環境づくり」については教師は9割、生徒は8割とその差が大きい項目のひとつである。いじめに関しては定期的なアンケート、教育相談を行い把握に努めており、その都度対応している。いじめのアンケートでも「いじめられた」と答えた者のうち、現在も悩んでいると答えた生徒は1名のみであった。また、「クラスいじめを許さないという雰囲気がある」と答えた生徒は5割を超えている。問題が起こったときの対応はしているが、日頃から検等していじめに関する問題を切り扱うなど、「いじめを許さない雰囲気」を醸成する取り組みが不足していると考えられる。日常的な取り組みをとおして生徒に安心感を与えていく必要がある。 保護者の「健康にかかわる指導」「施設設備の安全」に対する評価はいずれも15ポイント前後低下している。事象発生後の問い合わせやクレームはほとんどなかったが、保護者の不安はぬくえず、十分信頼回復ができていないといふことが、
	2	相談・支援体制の充実	B	教師の肯定的評価が90%であるのに対し、生徒は61%で両者の差が大きい項目である。教師は自身の取り組みに満足感を持っているが、生徒が求める対応はできていない。あるいは教員の配慮や対応が生徒に伝わっていない。一定の生徒に継続的な支援が長期必要であり、職員的身体的・精神的拘束が長くなることも、他の生徒にとっての満足度を下げる一因になっているのではないかと考えられる。生徒がどう感じているか、どうしてほしいと思っているか調査し把握する。また、学校保健部を中心に、相談や支援のシステムはできているが、日頃からすべての生徒に目を向け、教師が情報を共有し、声掛けを行い、見守っているというメッセージを伝えることができているか、点検が必要である。
重点目標	3	教師の指導力向上	B	「意欲的に授業に取り組めるような環境づくりができていない」に対する肯定的評価は教師、生徒とも70%である。生徒については昨年より9ポイント、また、「そう思う」と答えた生徒は昨年より10ポイント増である。令和4年度よりはいじめ各教室への大型モニター、生徒のタブレット端末所持が完成したことによるものか、「わかりやすい授業の工夫」についての肯定的評価は教師97%、生徒75%である。生徒の授業に関する自由記述欄には「生徒自身が考える時間を作ってほしい」という要望が散見され、ICT活用と共に生徒主体の授業改善が望まれている。
	4	基礎学力充実のための取り組み	B	「生徒の基礎学力が十分身につくように努めている」に対する教師の肯定的評価は昨年より14ポイント低下し61%である。生徒の肯定的評価は7割程度であるが微減傾向である。マナトレの効果についての教師の肯定的評価は、ここ数年3割程度である。昨年度までの結果を受けて年度初めに実施について検討。効果的に行うための改善策など意見を集め職員で共有したが、変化は見られなかった。教師が効果に疑問を持っている状況は、継続も効果もあがることもできないのは当然である。教師の評価が下がった要因を調査し、全職員が問題意識を持ち、今後の在り方を検討する必要がある。
	5	専門性習得のための取り組み	A	教師の肯定的評価は93%で、昨年度より12ポイント上昇。生徒の肯定的評価も83%と例年と変わらず、特に「専門的な学習内容は充実している」という問いに「そう思う」と答えた生徒は46%と満足度は高い。資格取得についても生徒の肯定的評価は微減し76%である。例年最も評価が高い項目のひとつである。教師の評価が大きく上昇しているが、現状に満足することなく、更なる向上を目指していかなければならない。
重点目標	6	基本的生活習慣の確立	B	頭髪・服装・挨拶・掃除については7割の生徒がきちんとできていると答えており、特に挨拶については自己評価が高い。保護者の評価はさらに高く、8割の保護者が「基本的生活習慣が身についている」「ルールを理解して行っている」と評価している。喫煙、飲酒や賭博については指導を要する生徒は少なく、落ち着いた学校生活を送ることができているが、言葉遣いや場に応じた言動など指導は必要である。「丁寧な指導を行っている」に対して、教師の8割、生徒の7割、保護者の6割が肯定的評価をしている。本校の教育の要となるところで、外部からも評価していたにしている部分であるので、100%の教師が「丁寧な指導」を行うことを目指し、高い評価を維持できるようにしていく。
重点目標	7	進路実現をめざした指導	B	進路指導部、各学年で計画的に進路指導は行われており、生徒も75%が肯定的評価をしている。「先生方は進路指導に熱心に取り組んでいると思う」という問いに「そう思う」と答えた生徒は昨年度より10ポイント増加し、38%となった。進路指導室の利用については、生徒・教師とも評価が低い。学年別にみると3年生の肯定的評価は6割であるが、1・2年生は3割程度である。また、「わからない」と答えている生徒の割合も1・2年生が高い。1年次から進路指導室の利用の仕方についての指導や利用の機会を作る必要があると考える。また、保護者の肯定的評価は微減しており、特に進路に関する面談については昨年同様否定的な評価が20%である。保護者への情報提供につとめ、連携を強めていく必要がある。
重点目標	8	文武両道をめざす学習と部活動の両立	B	部活動の加入率は約8割であり、保護者の9割以上が「本校は部活動、生徒会活動が積極的である」と答えている。部活動の推進と技術向上の取り組みに対する評価も高い。生徒の学習と部活動の両立に対する肯定的評価は、昨年より10ポイント上昇し65%。教師の肯定的評価は8割程度と高い。否定的評価は2割である。教師が配慮できていないと考えるのはなぜか、その要素を確認し改善する必要がある。
重点目標	9	人権教育の推進と心の涵養	B	ハラスメントに関しては、生徒は昨年度より9ポイント上昇し8割が肯定的な評価である。教師の肯定的評価は9割と昨年度と変わらないが、それ以前に比べると10ポイント以上上昇している。教師と生徒の理解の違いから、教師の指導をハラスメントと感じている生徒がいることも考えられるので、評価が上がったことに安心せず、定期的な研修など日頃の指導を見直す機会も必要。また、重点目標1の「いじめを許さない雰囲気」についての評価が低いことから、いじめをはじめ人権問題について、1日等に計画的に取り入れていく必要がある。
重点目標	10	働き方改革の推進	C	休職の取得については、今年度は昨年度より10ポイント上昇し、肯定的評価は70%となっている。土曜日の学校行事の振替休日をあらかじめ定めた（以前は各自で取得）、私傷病休暇を短時間の療養や定期受診にも適用したりすることで、休職を取得しやすくなったためと考えられる。仕事の取り組みについては肯定的評価は47%であるが、昨年度より20ポイント上昇している。労基署の介入以降、時間外勤務を意欲するなど職員の意識の変化が要因か。単に業務の削減をするのではなく、必要なことを効果的に効率よく行う見直しが必要である。また、生徒と向き合う時間が確保できたかという観点での評価も必要。
その他	11	魅力ある学校づくりと生徒募集	B	概ねコロナ禍以前の形で学校行事や部活動を行うことができるようになってきている。感染対策に配慮した実施方法も定着してきた。学校行事が充実し、魅力的であると答えた生徒は昨年度より7ポイント上昇し、64%である。保護者の90%は子どもは積極的に学校行事に参加していると感じ、部活動や生徒会活動は活発であると答えている。コロナ禍では感染対策をどうするか検討の主題であったが、今後は行事の内容をさらに検討していく。学校が明るく楽しいと感じている生徒は74%で学年ごとのことに評価があがっている。この学校に入学して良かったと答えた生徒は64%で、例年と大きく変わらない。8割程度の保護者は、子どもは楽しく意欲的に学校に通学している、入学させて良かったと思っている。一方で「生徒は本校に入学して満足していると感じる」教師は昨年同様6割程度である。以前は8割が肯定的な評価をしていた。生徒の満足度が上がっていると考えられているのとは、なぜ下がっているのか検討し、生徒の満足度を高める取り組みを積極的に進めなければならない。

